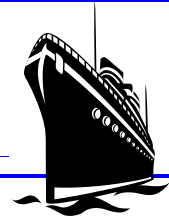


MSI Marine News

トピックス



●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご覧ください。 (http://www.ms-ins.com/marine_navi/)

船舶事故ハザードマップについて

航空・鉄道・船舶事故の原因調査を行う運輸安全委員会では、国内での船舶事故発生状況を地図上で確認できる「船舶事故ハザードマップ」を2013年5月からインターネット上のサービスとして提供していますが、2014年4月より、海外で発生した船舶事故情報についても世界地図から探することができるグローバル版の提供を開始しました。本号では、この「船舶事故ハザードマップ」についてご紹介いたします。

1. 「船舶事故ハザードマップ」(日本語版)の概要

「船舶事故ハザードマップ」は、運輸安全委員会がこれまでに公表した船舶事故等の調査報告書約5,000件のデータ、および海難審判庁が1989年から2008年までに言い渡した裁決のうち、衝突・乗揚事故約10,000件のデータを基に、船舶事故の発生状況を日本地図上に示したものです。また、事故状況のみならず、船舶の交通量、航路、リアルタイムの気象・海象情報、港湾や漁場・漁法についても重ねて表示することができます。「船舶事故ハザードマップ」は運輸安全委員会のホームページからアクセスでき、どなたでもすぐに利用可能です。 <http://jtsb.mlit.go.jp/hazardmap/>

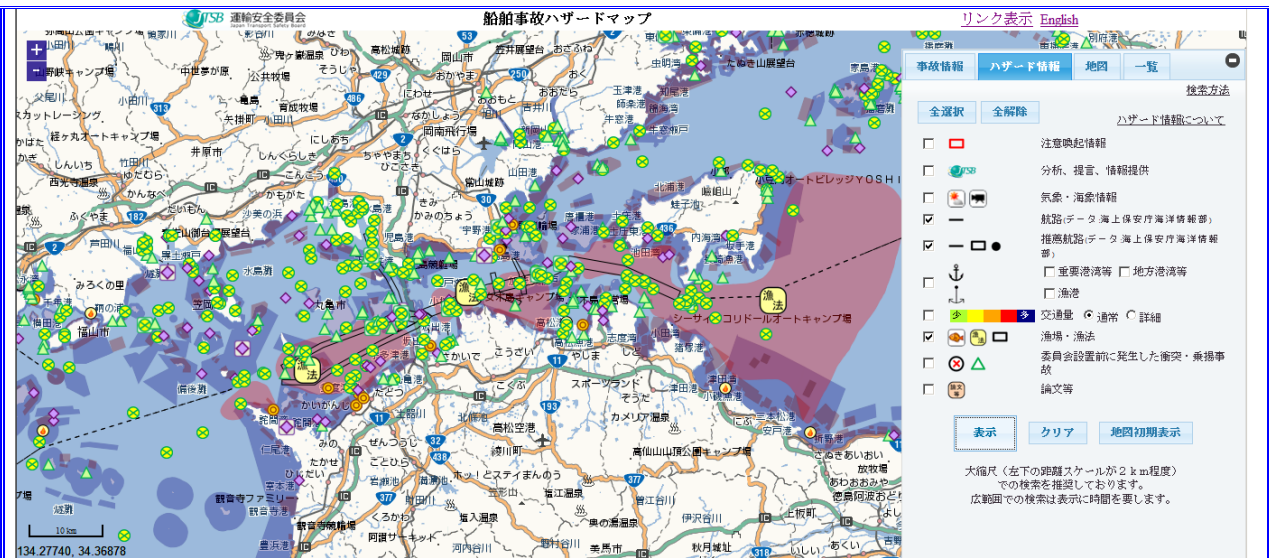
2. 基本機能

① 事故情報

トップページでは日本地図全体が表示されますので、詳しく見たいエリアをズーム表示し、画面右下の表示ボタンを押すことで事故例がアイコンで表示されます。また、画面右側の事故情報タブにて、地名や事故発生日月、船種や総トン数を基に検索することも可能です。各アイコンをクリックすると、その事故について詳細が表示され、運輸安全委員会調査報告書や海難審判庁裁決について詳しく見ることができます。

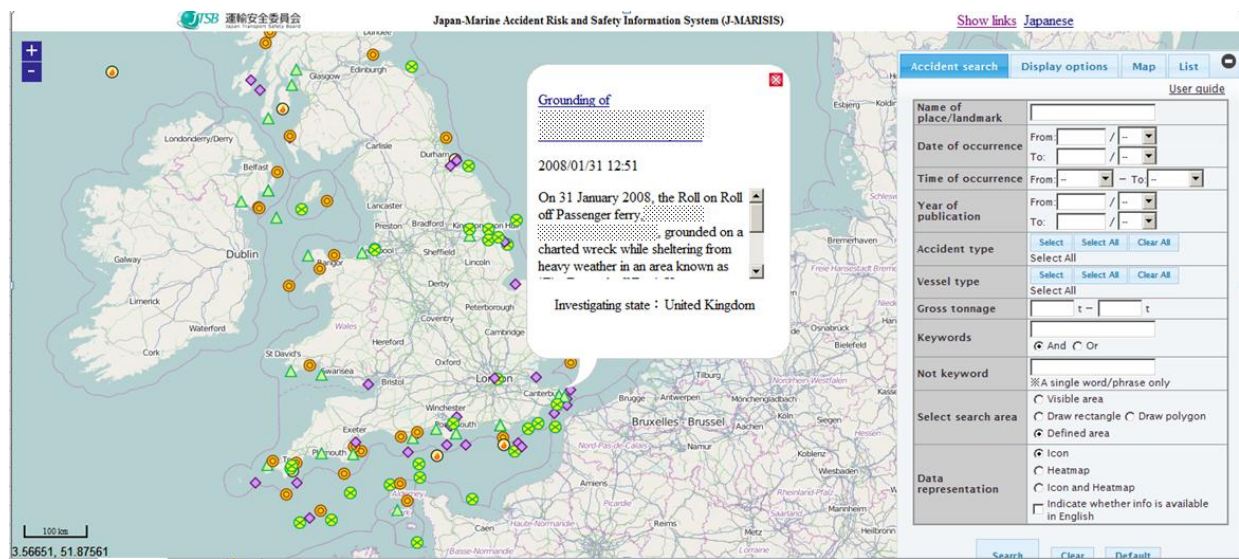
② ハザード情報

上記事故情報に加え、画面右側のハザード情報タブからは、航路や漁場などを同時表示することができます。例えば、漁場をクリックすると、漁業の種類や時期が記載されていたり、漁法についてイラストで説明されたりしています。これにより、各航路上でどんな漁業が行われているのか確認することができます。



3. グローバル版の提供開始

運輸安全委員会は2013年9月に開催された第9回欧州船舶事故調査官会議（EMAIIF9）、および10月に開催された第22回国際船舶事故調査官会議（MAIIF22）において「船舶事故ハザードマップ」を紹介し、賛同が得られた参加国事故調査機関の協力を得て海外で発生した船舶事故情報についても検索できる「船舶事故ハザードマップ・グローバル版」を作成、2014年4月より提供を開始しました。基本的な検索方法は日本語版とほぼ同じです。http://jtsb.mlit.go.jp/hazardmap/index_en.html



賛同各国調査機関が公表している事故調査報告書約400件を反映しており、現在主に英国・北米・豪州海域における事故について比較的多くの情報を検索することができます。今後も国際会議等の場において賛同国が増えることで、対象海域がますます拡充されることが想定されます。（現在の賛同国：イギリス、フランス、オランダ、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド）

4. おわりに

上記のように、地図上で航行予定海域の想定されるリスクを事前に把握できること、また事故報告書など船員の安全教育等の資料としても利用できることから、事故を未然に防ぐための有効なツールとして多くの海事関係者による活用が期待されます。

<参考文献一覧>

運輸安全委員会HP：<http://www.mlit.go.jp/jtsb/index.html>

海洋政策研究財団HP：<http://www.sof.or.jp/jp/index.php>

「ふねとうみ その安全を求めて」（公財）海難審判・船舶事故調査員会（2013年9月号/2014年4月号）

以上